



2016年3月29日

各 位

会社名 マックスバリュ九州株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 佐々木 勉  
 (コード番号: 3171 JASDAQ)  
 問合せ先 経営管理統括部長 篠崎 岳  
 (電話番号 092-433-1228)

当社の親会社名 イオン株式会社  
 代表者名 取締役兼代表執行役社長 岡田 元也  
 (コード番号: 8267 東証第1部)

## 業績予想の修正および特別損失の計上に関するお知らせ

当社は、最近の事業環境の変化を踏まえ、2015年10月7日に公表した2016年2月期(2015年3月1日～2016年2月29日)の連結業績予想および個別業績予想を以下の通り修正いたします。

また、2016年2月期・期末決算において、特別損失の計上を行う見通しとなりましたので、お知らせいたします。

### 記

#### 1. 連結業績予想の修正

2016年2月期連結業績予想数値の修正(2015年3月1日～2016年2月29日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円. 銭
前回発表予想 (A)	156,000	1,500	1,500	500	66.42
今回修正予想 (B)	159,000	1,980	2,000	790	104.95
増減額 (B-A)	+3,000	+480	+500	+290	
増減率 (%)	+1.9%	+32.0%	+33.3%	+58.0%	
(ご参考)前年同期実績	146,109	1,316	1,335	153	20.45

#### 2. 個別業績予想の修正

2016年2月期個別業績予想数値の修正(2015年3月1日～2016年2月29日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円. 銭
前回発表予想 (A)	152,000	1,500	500	66.42
今回修正予想 (B)	155,000	2,100	470	63.06
増減額 (B-A)	+3,000	+600	△30	
増減率 (%)	+1.9%	+40.0%	△6.0%	
(ご参考)前年同期実績	141,936	1,448	267	35.55

### 3. 修正の理由

#### ①個別業績予想について

食品小売業最大のピークである年末年始を含む第 4 四半期累計業績の動向を踏まえ、業績影響を精査いたしました。

売上高につきましては、年末年始のみならず、年始以降も引き続き好調な業績となっており、増加を見込んでおります。販管費におきましても、人件費の効率化が進捗していることや、販売促進手法の見直しに加え、原油価格の安定により、水道光熱費等も当初計画を下回る低い水準で推移しております。このため、経常利益につきましては、前回予想を上回るものと判断いたしました。

一方で、当社連結子会社である「株式会社クリエイト」の株式につきまして、今般減損会計適用を行う見込みであり、合わせて関係会社事業損失引当金を計上いたします。よって個別業績予想は、売上高は155,000百万円、経常利益2,100百万円、当期純利益470百万円に修正いたします。

#### ②連結業績予想について

個別業績の見通しを踏まえ、売上高159,000百万円、営業利益1,980百万円、経常利益2,000百万円、当期純利益790百万円に修正いたします。

### 4. 特別損失の内容について

#### ①子会社株式の減損(有価証券評価損)について

当社が保有する、子会社・株式会社クリエイトの株式につきまして、会計基準に従い、減損処理をいたします。このため、個別業績におきまして特別損失が62百万円発生いたしますが、連結業績には影響いたしません。

#### ②関係会社事業損失引当金の計上について

当社の子会社である株式会社クリエイトの債務超過額相当額を、関係会社事業損失引当金として計上いたします。このため、個別業績におきまして特別損失が641百万円発生いたしますが、連結業績には影響いたしません。

#### ③子会社である株式会社クリエイトののれん減損の計上について

株式会社クリエイトののれんにつきまして、会計基準に従い、減損処理をいたします。個別業績に影響はございませんが連結業績におきまして特別損失が268百万円発生いたします。

※上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって業績予想数値と異なる結果となる場合があります。

以 上